

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2023年8月号

森のおくりもの 8

NO.383 The Gift from Woods

ウシアブ（アブ科）



子供の頃、川に遊びに行きアブに刺されたことがあり、「アブ＝痛い」のイメージが強かったのですが、最近では「アブ＝目がきれい」と感じる事が多く、眼を観察したら逃がしていました。そんな中、顔の特徴を調べるために拡大したらびっくり！触角がかっこよかったのです。ハエやアブ等は、複眼が接していればオス、離れていればメス、顔の特徴で雌雄判別できるのも面白いですね。観察の森では、アブが室内に迷い込むことも多く、じっと観察していると寄ってくる場合もありますので虫刺されにはどうぞご注意ください。【館長：佐藤由美】

森のことは

自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『永劫回帰(えいごうかいき)』

昨年は東北地方では梅雨明けが特定されませんでしたでしたが、今年は7月22日に梅雨明けとなりました。南部では平年より2日早い梅雨明けです。今回の梅雨の期間には、大雨の災害が発生した地域もあり、大変な状況を報道で目にしました。梅雨が明けたら猛暑で危険な暑さになり、夏とはいえ、今までこんなにも気温が高いことはなかったのではと思いました。大雨や猛暑も、温暖化の影響で気象が異常となっているのではと心配になります。

セミが鳴きはじめ、ヤマユリが大輪の花を咲かせるなど、続々と夏の自然の光景が繰り広げられています。毎年梅雨があることもそうですが、同じくらいの時期に決まって姿を現す自然の営みに不思議さと神秘さを感じます。当たり前というしまえばそれまでですが、年によって多少の変化はあるものの、同じものが同じ時期に見られるというのはすごいことですね。

そんな自然の営みから『永劫回帰』という言葉が浮かびました。「世の中は、同じ事象が永遠に繰り返すということ」という意味です。これは、ドイツの哲学者ニーチェの思想で、複雑で深い解釈があるのですが、難しすぎて説明できないので言葉の意味だけに留めておきます。難しい思想ですが、字面のバランスがいいのと、「自然の営みは同じことの繰り返し」の裏には、生きものが命を燃やして種を繋いでいると感じて、かっこいい言葉だと思いました。

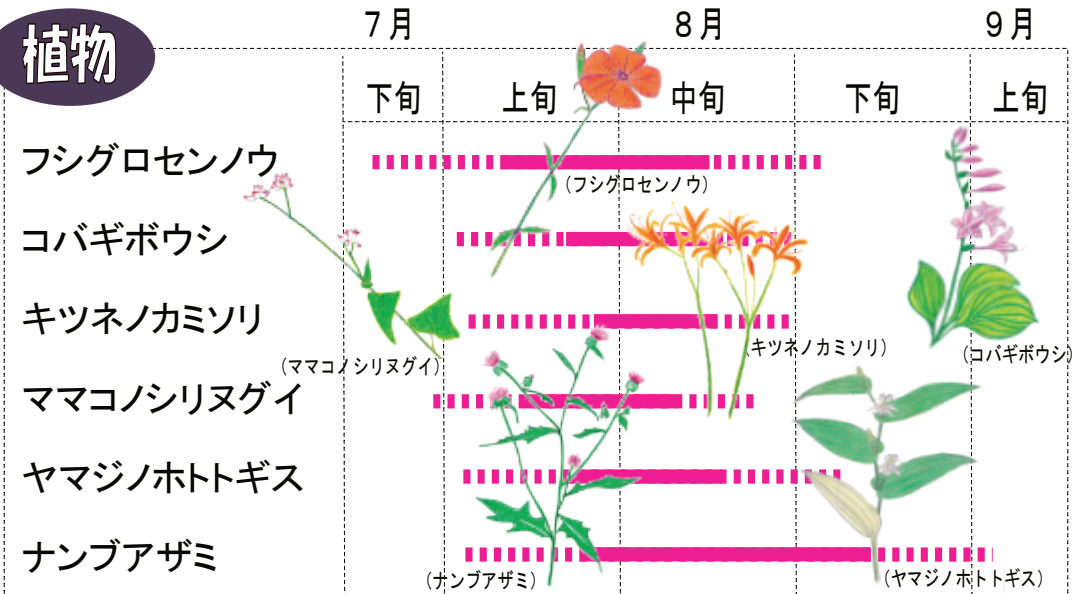
永劫回帰の思想には「宇宙は永遠に循環運動を繰り返すものだから、人間は今の一瞬一瞬を大切に生きるべきである」という意味があります。疫病や災害でも歴史を振り返ると、大雑把に見れば大昔から同じようなことが起きていると気づきます。もしかしたら、いつどうなるかわからないものだから、今を大切に生きろという意味なのかもしれません。人間も自然界の生きもののように生きることだけで精一杯の暮らしだったら、温暖化の問題を引き起こさなかったのかなと考えてしまいます。

【レンジャー：新田隆一】



8月の生物ごよみ

植物

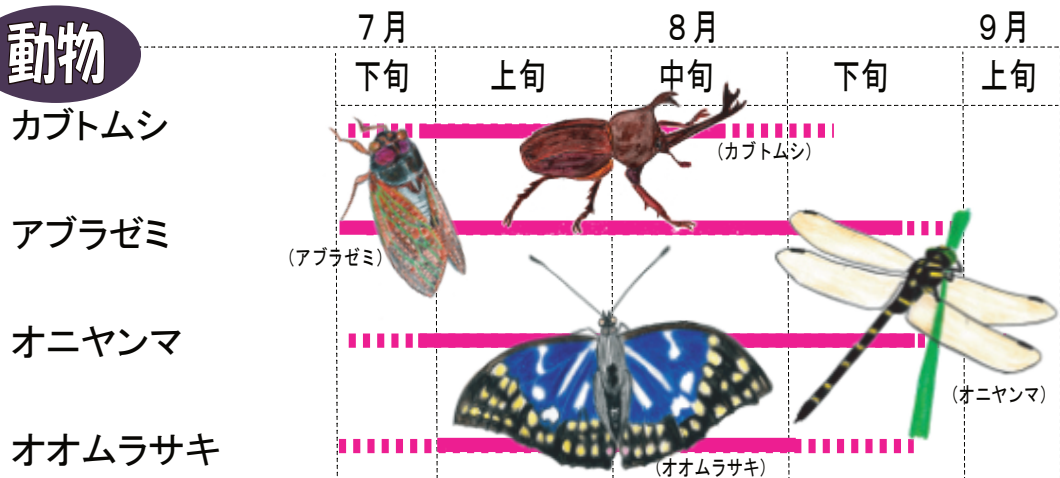


今年のセミの発生は昨年とほぼ同じで、ニイニゼミが6月27日、ヒグラシが6月29日、エゾセミが7月9日、ツクツクボウシが7月11日、ミンミンゼミが7月12日、アブラゼミが7月15日という状況でした。

7月22日(土)の夜に今年も『セミの羽化を観察しよう』というイベントを開催しました。このイベントのため、開催する1週間前から何度か下見をしたのですが、下見を含め今年はセミの羽化があまり見られませんでした。今までで多い時ではまるで七夕の短冊のように、いたるところでセミの羽化がみられました。そんなシーンを参加者にも体験してもらいたかったのですがあまり見ることが出来ず少し残念です。少ない中でも各自で決めたセミの羽化をじっくりと観察し、貴重な体験が出来たと思います。

【レンジャー：齋 正宏】

動物



森の「あれこれ」



「観察の森の爬虫類たち」



観察の森に棲むトカゲやヘビなど爬虫類で特に目を引くのがニホントカゲです。全長20cm前後とあり、これからの季節、日差しが強い日に乾燥した場所での出逢いが期待できます。黒地に黄色のラインに鮮やかなブルーの尾。そんな個体を見つけるとハッピーになりますよ(上の写真)。

さて、森で見つけた不思議な何か(左の写真)、ヘビに巻きつかれたニホントカゲでした。尾の先に自切して生え変わった痕が確認できます。迷いましたがヘビの頭をおさえ放してあげました。

シマヘビの幼蛇は不満気(笑)に立ち去り(写真下)ニホントカゲはいなくなっていました。昨年の晩夏の出来事です。 【レンジャー：木田秀幸】



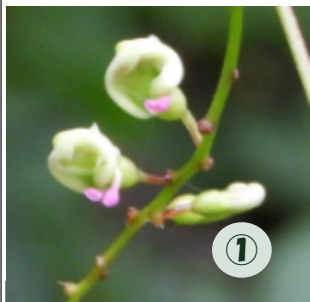
森は糸



森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*^^*)

ニイニゼミの声を聞いたと思ったら一齐にアブラゼミ、ヒグラシ、ミンミンゼミそしてエゾゼミの聲が大合唱の7月でした。さらに旧盆の頃に秋を感じさせるツクツクボウシまで大合唱に参加して鳴き始め、季節感がグニャグニャと歪んだ気がするのは錯覚でしょうか。ここ数年8月に開花していた写真①のホドイモの花、写真②のボタンヅルの花、そして写真③のホツツジに至っては8月中旬に開花していたのにもう咲いています！ …(^_^♪



日当たりなどの環境や株の性質が開花に影響を与えていたのかもしれませんが、写真④のナンブアザミはどこを見渡しても例年通り8月の開花になりそうです。葉と同様にとげとげの総苞で包まれた蕾はクリのイガのようです。ノアザミと違って総苞には粘り気が無いので、安心してナツアカネとアカハナカミキリが休んでいました。ところで開花の時期は揃いそうですが葉の形に関しては写真⑤、⑥のように何と不揃いなことでしょうか。環境によらず開花の時期を最優先にして自らの姿を変えているのでしょうか。同じ株の葉であってもヤマグワのように違って面白いですよ。 ……(^_^♪ 【レンジャー：菅原幸彦】

8月のイベント & お知らせ

イベント

◆「家族で昆虫かんさつ」

- 【日時】8月12日(土) 10:00~11:30
- 【対象】小学生とその保護者 10名
- 【内容】散策しながら昆虫を探し、特徴を観察して自然を楽しみます
- 【持ち物】飲み物、帽子、虫よけ薬、かっぱ、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】8月6日(日)午前9時より電話受付(先着)

◆「虫のいどころ」

- 【日時】8月19日(土) 10:00~11:30
- 【対象】20名 (中学生以下は保護者同伴)
- 【内容】昆虫に詳しい講師から昆虫探しのポイントを学び、観察します
- 【持ち物】飲み物、帽子、虫よけ薬、かっぱ、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】8月8日(火)午前9時より電話受付(先着)

◆「夜の昆虫観察 ライトトラップ観察会」

- 【日時】8月19日(土) 18:30~20:00
- 【対象】小学生以上 20名 (中学生以下は保護者同伴)
- 【内容】昆虫に詳しい講師を招き、光に寄って来る昆虫の習性を利用したライトトラップでおびき寄せた昆虫を観察します
- 【持ち物】飲み物、懐中電灯、虫よけ薬、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】8月9日(水)午前9時より電話受付(先着)



ガイドウォーク 毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます

開催日: 6日, 13日, 20日, 27日
時間: 10:00~11:30, 13:30~15:00
※4月~11月は午前・午後の2回実施します

休館日



7日, 14日, 21日, 28日
毎週月曜日休館、月曜日が祝祭日の場合翌平日が休館

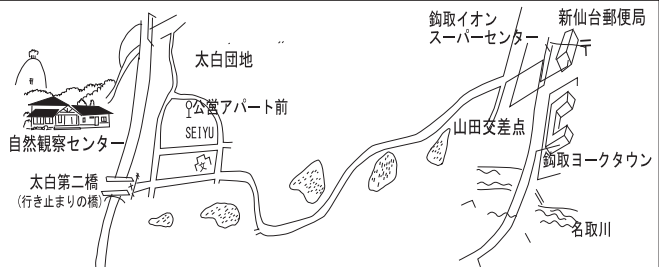
観察の森へのアクセス

宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③「太白団地經由山田自由ヶ丘車庫行」
※③のみ「太白団地, 山田自由ヶ丘經由仙台南ニュータウン行」
いずれも 公営アパート前 下車 → 徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会
編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター